

☆夏休み長期貸出 実施中

返却日:8月26日(水)、貸出冊数:6冊まで

☆夏休み開館について

◎今年度の夏休み開館は、7月27日(月)9:00~16:00のみです。

今年度は、北館のエアコンの工事が7月28日(火)~8月24日(月)の間に行われるため、開館日は7月27日(月)の1日のみです。

8月25日(火)始業式の日も、開館時間は9:00~11:30と変則的になっています。

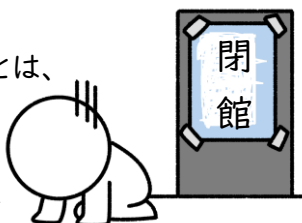
よって、夏休み長期貸出の返却日は8月26日(水)とします。

◎大学入試・探究学習・夏休みの読書に必要な図書の相談はお早めに

既に数名の人が探究学習や大学入試のための本の相談に来ています。夏休み中に本が必要な人は、なるべく早めに相談に来てください。リクエストの本を購入しても、実際に届いて皆さんにお渡しするまでに1週間~10日前後かかります。リクエストは「この本」と判ってなくても、「この分野の本」でも対応します。(その分野の基本書や、当該学部の学びで必要でありそうな入門書などを選書して購入します。本のレベルも希望を伝えてください。)

◎夏休み開館、あえなく消滅寸前(エアコン工事のため)

夏休み開館の日がこのように少ない、しかも1日のみ、ということは、図書館担当者(島田)が知る限り(ここ15年ほど)、初めてで、とてもショックを受けております。コロナの時も、7月いっぱい開館していました。今年度は、本を借りる人の顔ぶれも多様化しているようですので、長期の閉館が利用者の皆さんの読書・学習に影響を及ぼすことを恐れております。夏休み前に、本を借りておいてください。



☆修学旅行関連の本 開架エリア入り口右手のワゴンに展示中

昨年度の修学旅行の実施後アンケートで、「後輩に伝えたいこと」として、「前もって、アウシュビッツのことやその他の歴史のことを知ること」という回答がありました。修学旅行は、単なる観光ではなく、学習活動なのです。事前学習を行って、実りの多いものにしましょう。

◎ベトナム修学旅行:最上段

ベトナムの国家・領土・民族・文化・歴史・言語・経済などの基本事項を知る本、料理や建築など、各分野についての本があります。

◎北海道・ポーランド修学旅行:中段・最下段

スキーや小樽についての本、ポーランドの地誌・歴史・文化・言語など、是非事前に読んでおきましょう。ナチス関連の本は歴史や人権のところにも多く配架しています。



☆皆さんからの本の相談・リクエストに向き合って

◎本校図書館は、学校図書館ですから、本学院の創立理念の下(もと)、教育に特化した図書館として運営しています。

具体的には、読書指導・蔵書構成について、各々が教育を旨(むね)としたものになるように取り計らっています。そのため、地方公共団体の図書館のような娯楽を兼ねた施設・蔵書構成ではありません。どうぞご理解ください。

◎皆さんからのリクエストへの対応:予算に大きく左右されておりますが……。

★教養・探究・進路に関連する本の相談・リクエスト:

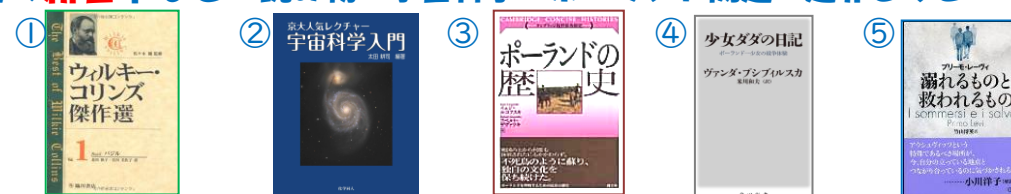
このジャンルへの相談・リクエストが最も多いです。お問い合わせ時にその分野の基本書や新しい本が無い、ということがしばしばあり、注文から納品・登録・ご案内まで時間がかかることが多くある状況です。まことに申し訳ございません。

このようにして購入した図書は、蔵書構成の是正に寄与するだけではなく、何よりその後他の生徒からの引き合い・利用がよくみられます。学習環境を生徒の皆さん自身で向上させているのは素晴らしいことだと思います。

★流行の読み物・軽い読み物のリクエスト:

流行の読み物は予算の都合により、軽い読み物(いわゆるライトノベルなど)は教育用図書館という性格から、なかなか応じることができない状況です。実際には、流行の読み物も多少は所蔵していますが、多くが先生方からのご寄贈本であるのが実情です。

☆最近の新着本など 読み物・宇宙科学・ポーランド関連:是非どうぞ!



①新着『ウィルキー・コリンズ傑作選』全12巻

北川依子・宮川美佐子・小池滋ほか訳 臨川書店:「近代長編推理小説の祖」と呼ばれるウィルキー・コリンズ。『バジル』『ならず者の一生』『幽霊ホテル』『ノー・ネーム』『アーマデイル』『夫と妻』『法と淑女』『毒婦の娘』を収める。寄贈本

②新着『京大人気レクチャー 宇宙科学入門』

太田耕司 編著 化学同人社:宇宙の概観から惑星・恒星・超新星爆発と元素の起源など14章。図版豊富で、各々の分野を専門とする教授が解説する。

③『ポーランドの歴史(ケンブリッジ版世界各国史)』

イェジ・ルコフスキ著 フベルト・ザヴァツキ著 河野肇訳 創土社:ポーランドの通史が解り易く書かれている数少ない本の一つ。教員推薦本→修学旅行ワゴン

④新着『少女ダダの日記 ポーランドー少女の戦争体験』

ヴァンダ・プシビイルスカ著 米川和夫訳 角川新書:ポーランド人少女が、戦時下の日常生活と、戦争、祖国などについての自分の思いを様々に綴った、1942年~1944年の日記。→修学旅行ワゴン

⑤『溺れるものと救われるもの』

プリーモ・レーヴィ著 竹山博英訳 朝日文庫:アウシュヴィッツ生還者である著者が、自らの体験を基に約40年の思索を経てナチスの政策、人間の在り方の本質について綴った本。ナチスの狡猾なやり口・罪深さが具体的にどのようなことであつたのかを理解することができる。→修学旅行ワゴン・高校挑戦本ワゴン両方にあり